

安心できる社会に向けて

これからの魅力あふれる大分市

域道路網を整備したり、居住地域の拡大にあわせ隣接市町村からの通学を受け入れたり、介護保険のように専門性の高い業務を新たに抱えたとき、共同での処理方法を開発したり、さまざまな課題に種々の方法が用いられてきました。また、日々の業務などを通じて交流が行われることもあり、それにより政策波及をもたらし、全体としての政策形成能力を高めています。政策実施における情報の共有も同様であります。自治体間の連携の一つの例として、ごみの焼却や埋め立て処理の問題があります。この問題について他国では自治体間の連携で処理されたこともあります。



のつはる天空広場

――佐藤市長、豊予海峡というテーマでは、愛媛県とのこれから連携はいかがですか。

市長 今年2月には、大分県中部地域と愛媛県西伊予地域の自治体で構成された「愛媛・大分交流市町村連絡会議」の首長サミットが大分市で開かれます。将来の話として、四国とトンネルで繋ぎ、新幹線、そして陸路も同じく九州と四国の高速ネットワークで繋ぐことは、将来の魅力や人口を増やすために必要だと思います。新幹線が開通すると、関西や関東に週1回か2回通勤しながら、大分市に住むことができます。

議長 国においても、市町村の連携の方向性を打ち出していますが、中心になる市をメインにその他の自治体が従うというような考え方だと問題です。自治体それが対等の立場で前向きな連携を進めていくことはとても大切だと思います。

過疎対策では国が現行の過疎対策法(過疎地域自立促進特別措置法)が3月31日で失効しますので、それに代わる新しい過疎対策法の制定を全国市議会議長会として国にお願いしています。現行の過疎対策法では、過疎市町村は返済額の7割を国が肩代わりする仕組みの過疎債を発行して、医療・高齢者施設、インフラ整備などに活用できるというものがあり、大分市も佐賀関地区・野津原地区で活用を進めてきました。全国的にも影響があるため「一部過疎」の継続を含め、新しい過疎対策法の制定をお願いしているところです。



――曾我先生、まとめをお願いします。

曾我 私は大分市に来るのが今回初めてです。今日、大分駅の屋上から見ても、大きいけど一つのまとまりがあるまちなんだなと思いました。そして印象的だったのは駅前がにぎわっていることです。全国各地、地方都市の場合、駅を降りた瞬間に寂しくなることが多いのですが、大分市の場合は人の動きが駅から始まります。若い人も多く、人の行き来があるというのが印象的でした。日本は至る所で中心部は厳しいと痛感することが多いので、いい意味で例外的な印象を受けました。

また、「人口の減少に歯止めをかける」ことが地方創生の一番の課題です。出生率の低下にどう歯止めをかけるのか、それぞれの地域に住んでいる人がきちんと生活できるような支援が必要です。地域を元気にするということのことで、全国市議会議長会として、自治会活動について委員会をつくり、研究課題として取り組んでいます。地域のリーダーを育てるという方向で、国の財政支援をお願いしています。

明るい未来に向けて

――曾我先生、まとめをお願いします。

曾我 私は大分市に来るのが今回初めてです。今日、大分駅の屋上から見ても、大きいけど一つのまとまりがあるまちなんだなと思いました。

そして印象的だったのは駅前がにぎわっていることです。全国各地、地方都市の場合、駅を降りた瞬間に寂くなることが多いのですが、大分市の場合は人の動きが駅から始まります。

若い人も多く、人の行き来があるというのが印象的でした。日本は至る所で中心部は厳しいと痛感することが多いので、いい意味で例外的な印象を受けました。

大分市の悪いニュースは、なぜか待機児童が

※ PFI手法
Private Finance Initiativeの略。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力および技術能力を活用し、効率的かつ効果的に行う手法。

